



# 未来への夢を育む

## 幼小の連携 遊びから学びへ

加茂川町立津賀幼稚園  
教諭 易慎太郎



「小学校へ行ってからはどうですか?」「幼稚園の時はどうでしたか?」このような会話を交わすたび、同じ敷地内に一校一園という関係にありながら、小学校との距離感をとっても感じていました。そのような状況の中、福武教育振興財団から教育研究助成をいただき、子どもたちの育ち、学びを一緒に考えられるきっかけがもてたことを、職員一同心より感謝いたしております。

「まずは、互いのことを知り合おう」と保育や授業を参観し合うところから始めた連携会議は、当初「近くにいなながら、こんなに知らなかったんだ。」という驚きの連続でした。しかし、回数を重ねていくうちに、日常生活の中で、子どもたちの自然なかかわりが多く見られるよう

になり、職員的心中に感じていた距離感は、ぐんぐん縮まってきました。小学校の休憩時間には、どこからともなく子どもたちが集まり、始まる相撲対決。幼稚園で横綱を張っている園児も、小学生相手になると全く勝つて涙を流し、その姿を見た小学生が、力加減を考えます。少子化、過疎化が進み、異年齢のかかわりが少なくなってきた環境の中で、子どもたち自身が体でぶつかり、互いの存在を求め、いろいろなことを学んでいる様子がうかがえます。単元を共通創造していった交流活動「一緒に遊ぼう昔あそび」では、1年生が、先輩として自分たちが教えるということに意欲を燃やす姿が見られました。刺激を受けた幼稚園児は、熱心に1年生の言葉に耳を

傾け、一緒に技を磨いていくように、今も交流できる時間を楽しみにしています。子どもたちの姿に、「遊びから学びへ」というテーマの重要性をあらためて考える機会となりました。これからの課題を明らかにし、幼小が相互に理解し合い、なめらかな段差で子どもたちの育ちをつないでいけるよう、研究を深めていきたいと思っております。

### 福武教育振興財団

#### 本年度の

## 事業計画

福武教育振興財団と福武文化振興財団は、2年後に設立20周年と10周年の年を迎えます。これを機に、財団の在り方を見直すため、基本問題検討委員会を設けて検討していただいております。昨年12月には宮地暢夫委員長から福武総一郎理事長に中間答申が提出され、早速、本年度から事業に取り上げることになりました。本年度は下表の事業を行います

- 1 表彰事業**
  - (1) 福武哲彦教育賞
  - (2) 谷口澄夫教育奨励賞
- 2 助成事業**
  - (1) 教育研究助成
  - (2) 研究大会等助成
  - (3) 英語研修助成
  - (4) 指定研究助成
  - (5) 特定教育助成
  - (6) その他の助成
- 3 調査研究事業**
  - (1) 海外教育事情調査
  - (2) 県内教育事情調査
  - (3) 児童英語指導者検定システムの開発
- 4 広報・啓発事業**
  - (1) 教育・文化講演会
  - (2) 教育研究発表会
  - (3) ホームページの更新
- 5 報告書等の発刊**
  - ・要覧
  - ・教育研究叢書
  - ・海外教育事情調査報告書
  - ・財団機関誌『不易』



福武教育・文化振興財団 基本問題検討委員会

【教育研究発表会】  
昨年度から講演会と同日開催にし、分科会を設けて発表をしていただいております。今年度は11月27日(土)、岡山大学副学長・松畑照一先生のご講演と各分野の研究発表をしていただくことになっております。

すが、新規事業や変更部分があるものは次のとおりです。  
【教育研究助成】  
前頁に記載しておりますように現在募集中ですが、研究領域の整理をし、また、学校をあげての研究を重視する方向で、助成の仕方を一部改善しました。  
【その他の助成】  
図書助成は中止になりました。英語研修助成は、倍増の四郡市で行います。特定教育助成は、教育工学や国際理解教育などの研究団体等を支援することになっています。  
【調査研究】  
財団として実施するもので、例年の海外教育事情調査団の派遣は参加者数を20名に増やします。  
また、新たに児童英語指導者検定システムの開発を研究団体に委託して行います。

### 谷口澄夫教育奨励賞を受賞して

## 「自閉症児の教育と箱庭療法について」

岡山市立南輝小学校 教諭 延堂雅弘



このたび、栄えある谷口澄夫教育奨励賞をいただき、大変光栄に思っております。

自閉症の教育において大切な手がかりとなるのが「構造化」という概念です。この概念はなかなか理解しにくいのですが、私が専門にしている箱庭療法の中心概念を参考にすると、ずいぶん分かりやすいので紹介することにしました。

箱庭療法を体系だてたカルプは、人が健康に成長するための条件として、「自由にして、しかも保護された空間 (Freien und zugleich geschützten Raum)」が必要だと述べています。

箱庭の箱にも同じ意味があり、箱という枠組みに守られながら、来談者は安心してその中に自分の内面を、遊びながら、少々危険なイメージやテーマでも、自由に表現することができるのです。

反対に、いつだれがじゃまをするか分からないような環境で

は、とうてい安心して自己表現することなど、できないでしょう。

このように考えてくると、箱庭療法によって表現される作品や来談者との人間関係を促進することも大切ですが、そのためにも、落ち着いて表現できる枠組みを設定するのが、かなり重要な条件になるのだと思われ

ます。この考え方を参考にすると、自閉症教育における、シヨプラーの述べた構造化の概念がよく分かるのです。自閉という障害は、なかなか安定した自分の世界を持っていないという特徴があります。彼らはいさばし過敏なセンサーを持っているので、日常的な些末な刺激に対しても、過剰に反応してしまします。

そこで、彼らを様々な刺激から保護でき、しかもその中で彼らの自由が保障されているような枠組みを設定することが求められるのです。

### 福武文化振興財団

## 本年度の事業計画

実際にそのような枠組みが学校現場の中で保障されると、彼らはずいぶん落ち着いて様々な課題に取り組めることができるようになります。ところが、実際には学校現場というところは、このような構造がなかなか確立しにくいという問題があります。第一に、学校というところは、本来集団活動を基本とした活動を前提に、カリキュラムや施設設備が設定されており、個別指導の環境を作りにくいという特性があります。

第二に、自閉という障害自体がコミュニケーションを困難にする特徴があるだけに、周囲の人にそのような枠組みを作る必要が理解されにくいということがあります。

私は現在、自閉という障害のある児童の教育に携わっていますが、このような学校現場の中で、意味のある枠組みづくりが大切だと痛感しています。そして、分かりやすい構造化をめざしたいと思っております。

福武文化振興財団は平成16年度も表彰・助成などの事業を行い、岡山県の文化振興の一端を担いたいと考えております。また、昨年度から、両財団ともに基本問題検討委員会を設け、事業内容の改善を進めてきております。

- 本年度の主な事業内容は次のとおりです。
- 一 福武文化賞**  
県内の文化向上に著しく貢献した個人・団体に贈ります。昨年度は木工芸作家の森田翠玉氏と詩人の三沢浩二氏が受賞されました。
- 二 福武文化奨励賞**  
県内の文化向上に著しい貢献が期待される個人・団体に贈ります。昨年度は演出家の東敬一氏と岡山フィルハーモニック管弦楽団が受賞されました。
- 助成関係事業**  
一 文化活動助成  
県内の文化振興と地域の活性化に資するため、伝統的な文化に資する現代文化にかかわる活動や調査研究に対し助成します。昨年度は伝統文化部門17件、現代文化部門32件が助成対象に選ばれました。
- 二 指定文化財保全助成**  
国、県指定重要文化財保全のための費用を助成するものです。
- 三 郷土芸能発表会助成**  
岡山県郷土芸能振興会が行う「郷土芸能フェスティバル」に助成します。
- 四 特定文化助成**  
地域の文化振興に特に有益と認められる記念的な文化事業に対して助成します。
- その他**  
調査研究事業、文化発表会や文化講演会、機関誌などの出版ホームページの開設も行っております。(野間)



第4回福武文化賞受賞者 森田氏への表彰